

第30号



2012. 7月



発行 城里町社会福祉協議会 ☎ 029-288-7013 FAX 029-288-7021 ホームページ <http://www.shirosato-syakyu.com>  
編集 広報ボランティアグループ



青山花しょうぶ祭り  
6月23日(土)・24日(日)に開催



**花菖蒲**は、あやめ科に属し、園芸品種として改良されたものです。その姿は凛として真直に伸び、楚々としたうつくしい女性に例えられます。「いずれあやめか、かきつばた」は平安末期、娶る女性を同じ衣装の12名の中から選べと言われ、戸惑う武将の様子を表したものと、伝えられています。

**青山菖蒲園**は山崎秀雄さんの趣味から始まりました。多くの品種を広い所で育てたいという山崎さんの想いが14年経って、現在の菖蒲園になりました。今では約3反の水田に60種類の花菖蒲が人々の目を楽しませていきます。花菖蒲には肥後系、伊勢系、江戸系の3系統があり、また、交配により多くの色の変化が生まれます。ここには3系統、60種類があり、これは山崎さんの努力の成果だといえます。また平日には、町内はもとより水戸、笠間など近郊の介護施設からの来園者が増えているそうです。「嬉しいことです」と山崎さんは話されます。

定着した花しょうぶ祭り

祭りには楽しむ人、楽しませる人、それらを後で支える人達がいます。今年も多くの人々が群生する花菖蒲を愛でるために訪れました。会場には、支援センター「つくし」の作品販売、手話サークル「つばさ」によるお茶会、主催者による休憩所が常設され、イベントとして、七会中の吹奏楽の演奏、商工会女性部のフラダンス、福島県棚倉町からの三味線の演奏、また「小林茂&トップスター」の演奏には多くの観客が手と体でリズムをとり楽しんでいました。

花の育成・管理、園内の交通整理などは14名の「花しょうぶ保存会」が行ない、祭りの準備や運営、花苗の販売などはボランティアサークル男塾の会員が中心になって行なっていました。

福祉体験学習 常北中学校1年生

思いやりの心を育む

6月12日(火)・26日(火)の2日間にわたり、常北中学校において、1年生120名が福祉・ボランティアについての総合学習を行いました。

12日は全員が3階多目的ホールに集い、社会福祉協議会職員によるボランティアについての話、東日本大震災でのボランティア活動を行っている石塚サン・トラベル株式会社・綿引薫社長の講話を伺いました。



綿引社長

綿引社長はボランティア活動を継続して行うことの大切さをわかりやすく説明してくれました。

また26日には、ボランティアグループ「ほほえみの会」の協力を得て、体育館でアイマスク体験(視覚障



熱心に聞き入る生徒たち

害体験)、車椅子体験(移動への介護)、シニア体験(高齢者・障がい者のハンディキャップと似た状態の疑似体験)を行いました。



アイマスク体験

ある階段も、一段一段おそるおそる白杖で確認しながら昇ったり、アイマスクを

外した時の明るさに感動したりしていました。

車椅子は病院などで目にすることはあっても、実際に動かすことは初めてという生徒も多く、操作の基本を学びました。

シニア体験では、手首や足首、肘や膝に錘りを装着して、筋力の低下を実感しました。またゴーグルなどで視覚障害を体験しました。



車椅子体験



シニア体験

体験学習に参加して



根本 蘭夢

6月12日にボランティアについてのお話を聞きました。東日本大震災を同じように体験した私達と東北の方々でも、被害の大きさを心の傷の大きさの違いを改めて知りました。

「被災地に行けなくても心を寄せるだけで思いは届く」と、講話の中で教えて下さいました。東北には、悲しみ、苦しんでいる人がたくさんいます。だから今、私達にできる事をしていきたいです。



岡崎 彩加

私は前に東北で使う土納袋に、メッセージを書いて送りました。東北の人たちがその袋を見て、元気になるってくれればいいなと思いました。

ボランティアは、身近にできる機会があることが分かりました。これからも、



久野 しおり

自分にあった活動をしていきたいと思っています。

私は、この体験でいろいろなことを学びました。特に心に残ったのは、アイマスク体験です。これは、今どこを歩いているのか、何かにぶつからないかという、目の不自由な方の不安がよく分かりました。



金澤 麻依

この体験を活かし、困っている人がいたらその人達の気持ちになり、助けあげられる人になりたいです。

今日、福祉体験をしました。その中でもアイマスクが心に残りました。アイマスクをつけたら何も見えなくて怖かったし、階段は難しかったです。もしも自分が毎日こんな思いをすると考えたなら、とても怖いと思いました。

今日の経験から、目や体の不自由な人の手助けが出来れば良いと思いました。

# エコ石鹸プロジェクト

平成15年より商工会女性部によって環境をテーマに環境にかなりの負担をかけている廃油の再利用として「EM廃油石けん」の試作が



石けんづくり

事業として始められました。家庭や事業所から出る廃油を、人の体に良いEM菌を使って石けんに蘇らせませす。当初はマイ石けんの製造をしてましたが、次第にお祭やイベントで販売するようになり、昨年9月には石けんプロジェクトチームが結成され、本格的な試作研



EM廃油石けん

究が進められています。ラベンダーがほのかに香るピュアな石けんは周りの評判も上々です。また、多くの方にこの石けんをお使い頂くために年内の商品化を目指しております。

# 城里の野菜で作ったシフォンケーキ

商工会女性部のシフォンケーキは、食の安全と安心をコンセプトに、地産地消のオリジナルティーあふれる



シフォンケーキ

商品の開発に取り組み、物産センター等での販売をはじめ地域の皆様に支えられながら、独自の展開となっております。

現在、地場産の野菜をふんだんに使用した「ベジタブルシフォン」をはじめ、10数種類のシフォンメニューが用意されております。



シフォン作業中

地域に密着し、皆様に愛される商品作りのために、これからも「女性たちの熱い挑戦はひるむことなく続いていくことでしょう」。

(商工会・小林記)

# ロハスな暮らし提案します

(健康で環境にやさしい)

城里町商工会女性部

## 下坏ゲートボールチーム 全国大会出場・北関東大会出場



下坏ゲートボールチームが、宮城で行われる全国大会、栃木で行われる北関東大会に出場します。

昨年笠松運動公園で行われた「いばらきねんりんスポーツ大会」において、第3位という成績をおさめ、茨城県の代表として全国大会の推薦をうけました。大会は10月13日(土)から16日(火)まで4日間にわたり行われ、熱戦がくりひろげられます。

また北関東大会は、9月1日(土)・2日(日)の2日間にわたり栃木県那須塩原市で行われます。茨城県の代表として活躍を期待しています。

## 善意銀行に寄付

城里町徳蔵にある徳蔵寺とくぞうじでは、毎年4月29日に徳蔵大師祭が行われます。多くの人たちが訪れ、よさこいソーラン、フラダンス、源太踊りなど盛りだくさんのイベントが催されます。

その時に訪れた参拝者に、城里町の福祉のための義援金を募り、大勢の方々から寄付が集まりました。徳蔵寺岸野教司住職と奉賛会の小滝月子さんが、この義援金を社会福祉協議会へ届けてくださいました。



かわらぬ生きる

郷土の森林を守りたい

「古内森林を守る会」会長 阿久津勇さん



右はじが阿久津会長

城里町の6割は森林です。町政も総合計画のなかで「心やすらぐ自然環境のなかで快適に暮らせるまちづくり」を一番にあげています。この森林を保全するために下草刈り作業をこの6年間毎年行ってきたボランティアグループがあります。そこで阿久津勇会長にお話を聞きました。

下古内に隣接して(財)日本自動車研究所城里テストセンターがあります。その施設内で、17年10月に町民や緑の少年団など235名が参加して「いばらきの森林づくり活動推進事業」が行われ、その時、景観づくりのために山桜などの苗木15本が移植されました。当然維持管理作業が必要になります。18年8月に地元ボランティアで下草刈り作業を行い、その時の参加者が発起人になって「会」が19年3月に設立されました。上古内、下古内各5名、計10名の参加でした。目的は、昔から生活に深い関わりがある森林を少しでも健全なものにして後世に引継ぐことです。

作業内容はどんなものでしょう

7月、草が伸びた時に下草を刈る事が主な作業になります。その場所は雑草や灌木が生い茂っていたところなので作業は大変です。

朝7時から3時間ほどの作業になります。暑いので汗びっしょりです。熱中症にならないよう注意しながらやっています。燃料、弁当などは自前です。

作業に危険が伴いますよね

作業を安全に行うために、笠間林業指導所の指導員から指導を受けながら作業をしています。また、会員も間伐や枝打ち、刈り払い機の講習会に参加していますし、チェーンソーの取扱資格を得るために講習会にも参加しています。万が一のために作業日の一日保険に加入しています。

今後の課題はどんなことでしょうか

設立当初10人いた会員が現在7人です。また、会員の年齢は50代から70代で高齢化も進んでいます。新たな会員の加入を望んでいます。また、古内地区だけでなく、他の地域にも森林を整備・保全するグループが立ち上げられたいと思います。ただ、ボランティアではなかなか難しい面があるとは思いますが。

ありがとうございました。

つくしの四季

新年度を迎えて、早くも4ヶ月が過ぎ、今日までたくさん行事がありました。

昨年は震災などの影響で、中止を余儀なくされたものも数多くあり、残念な思いをしました。

今回は、「常陸国YOSA KOI祭り」が復活し、3年ぶりに参加してきました。

当日の5月20日は、大子町の袋田会場(ホテル「豊年満作」特設ステージ)と大子会場(大子町文化福祉会館前 特設ステージ)の2ヶ所で、披露しました。

他県からの参加者も多く、それぞれ独自の衣装に身を包み、さまざまな演舞スタイルで周囲を楽しませてくれました。一つのチームで2編制に分かれて、ステージに出入りするチームで、激しさがあつつも息のあった演技に心を打たれました。

よさこいは、陸上のシンクロと言っても間違いのないのかも知れません。

次に、6月23日・24日に花菖蒲祭りが開催されまし



た。23日は、くもりでしたが外で過ごす分にはちょうど良く、園内は見物客も多く、たくさんのステージ発表もあり、僕の所属していたつくしんぼ音楽隊も参加していました。僕は、またこの景色で再会できることを願っていたので、すごく嬉しかったです。今回を機にいろんなところで、演奏できると良いと思います。まだまだ書ききれないところもありましたが、復活の話題を取り上げてみました。震災の衝撃は、計り知れないものでしたが、確実に前に進んでいるのは確かです。これからも望みを捨てず、走り続けて生きたいです。(加藤 直)

伝わる心  
「和敬清寂」  
茶事の心構え

5月8日(火)、石塚の「割烹和田新」にて、城里町地域活動支援センター「つくし」の通所者を招いての春のお茶会が行われました。

この茶会は「手話サークルつばさ」が主催しており、当初は通所者へのお茶のサービス程度でしたが、だんだんに本格的になってきました。「正座は大変ですが、挨拶やお茶のいただき方、また床のお軸や季節のお花の話をしながら、出来

るだけ茶の心をお伝えしたいと思えました。そして一服のお茶を楽しんでいただきたいと思っています」とのお話でした。

この日、待合に通された通所者達は香煎をいただきました。そして花の名残を語らい、これからのお席を楽しみに待ちました。

微かに香木の香り漂う茶席に入ると、この日の為にしつらえた床の間の掛け軸や花、部屋の一角に置かれた風炉等の茶道具を興味深げに見ていました。

定席に着き、いよいよお茶会の始まりです。正客から順にお菓子や薄茶をいただきます。

通所者達はお茶を点ててくれた人に一礼し、「お先に」と次客にも挨拶し、お菓子や薄茶をいただいています。



お茶をどうぞ

女性に通所者は、点てた



おいしいね～

お茶を仲間の通所者達に運ぶという事も経験しました。これは6月24日(日)の花菖蒲まつりで行う掛け茶屋のお手伝いの予行練習を兼ねているとの事でした。「毎年やっているのに、やり方を忘れちゃう。すごく緊張する」と、お茶を運んだ通所者の一人は話してくれました。

通所者達の感想は、緊張しました。お菓子おいしかったです。緊張しましたが、とても楽しかったです。お茶わんを置いたり、回したりするのが難しかったです。

と云うのが寄せられました。

つくしYOSAKOI城里  
イン 大子

常陸国YOSAKOI祭りが大子町で開催され、それに参加しました。

常陸国YOSAKOI祭りは、県内はもちろん他県からも大勢参加している大きな大会で、今年は9回目になります。流し踊りとステージでの踊りがあり、ステージは審査参加と一般参加があります。

昨年は震災のため大会が中止だったので、私達は一般参加部門に、3年ぶり、5回目の参加になりました。「つくしYOSAKOI城里」は、地域活動支援センターの通所者を中心に活動していますが、当日は、通所者10名、職員7名、保護者9名、ボランティア9名の総勢35名で参加しました。

天気にも恵まれ、午前は袋田の豊年満作会場で「よつちよれ」を、午後は大子メイン会場で「しゃげサンバ」を踊りました。皆、それほど緊張することなくステイジいっぱい元気に踊ることができ、大きな拍手をいただきました。

審査部門に出場したチームの踊りは、さすがに素晴らしく、衣装の華やかさも含め感動の連続でした。

町内のイベントや来年の常陸国YOSAKOI祭りにも、より上達した踊りが発表できるよう、これからも元気に楽しくをモットーに、練習を続けていきたいと思えます。



大子メイン会場にて

# 防災セミナーを開催 私たちのまちは、私たちが作る

石塚西区自主防災会

東日本大震災から1年数ヶ月、いまだ災害の爪跡は残されたまま、余震も続いています。

現在、新聞・テレビ等で今後大地震が起こり、大きな被害が発生するとのニュースが頻繁に報道されています。なかでも「首都直下型」の大地震により、茨城県にも多大な被害が予想されます。特に二次災害として「火災」の発生が予測されます。

自分の地域に大地震が起こった時、住民一人一人の自主的防災活動が必要不可欠になります。「私たちのまちは、私たちが守る」と



水戸消防本部の柏主幹

いう基本的な考え方を地域全体で持つことが大切です。

そこで石塚西区自主防災会（地域が一体となった防災活動を行うための組織）では、「防災セミナー」を

5月27日（日）に、常北公民館で開催、70名を超す地域住民が集いました。

石塚西区・大門自主防災会々長の挨拶のあと「大地震にどう立ち向かうか」群馬大学大学院片田敏孝教授の「釜石の奇跡」のDVDが上映され、つづいて水戸市消防本部火災予防課の柏正宏主幹の講演がありました。

まず地震における火災の初期消火活動の重要性、又注意点などについて話がありました。地震の揺れが収まったら、第一に電気のブレーカーを降ろす、次にガス、ストーブなどの火を消す、安全地帯への避難など

があげられます。また、火災では煙を吸いこんで窒息死する場合が多いので、身体を低くして逃げる様にとのことでした。



熱心に聞きいる参加者

会場からは火災報知器についての質問があり、城里町では全戸配布がなされていますが、特に寝室に設置する様に、出来れば各部屋につけて下さいとの話でした。また消火器についても質問がありました。

参加者の一人は災害は何時くるかわからないが、大事な問題なので真剣に考える場を提供していただき、ありがとうございました。

## 城里町社会福祉協議会 情報メール配信サービス

社会福祉協議会のホームページにおいて情報一斉メール配信のサービスを開始しました。イベント情報・ボランティア情報・社協からのお知らせなどを配信するサービスです。

パソコンや携帯電話などのメールアドレスをお持ちの方であれば、どなたでもご利用できます。

登録は、ホームページ上の「お問い合わせメール」のページから受け付けいたします。利用規約を確認の上、利用して下さい。

### ホームページアドレス

<http://www.shirosato-syakyu.com/>



## しろさと 皇都川

皇都川は関東の嵐山と呼ばれている御前山の奥、大天狗あたりから流れはじめ、御前山地区で那珂川に注いでいます。この川の上流は山深く清らかな流れでありますが、下流は厚い砂利層のため、いつもは水が伏流して流れる見ることができません。俗に「踏ん止め川」といわれ、その豊かな地下水は今でも水道の水源として用いられています。入口は道の駅「かつら」の反対側を入ります。道幅はそれ程広くありませんが舗装されており、道なりに車を走らせると幾つもの橋をまたいで右に左に清流が音をたてて流れています。これからの季節、訪れてみてはいかがでしょうかでしょう。



# 手話を学ぶ

## ③ 家族の紹介

今回は、家族構成を表す手話表現を紹介したいと思います。

【父】  
右手の人差し指をほほにあてて、親指を立てて目より上にあげる。



父

【母】  
右手の人差し指をほほにあてて、小指を立てて目より上にあげる。



母

人差し指をほほにあてるのは、「肉親」を表わし、親指を立てるのは「男・男性」、小指を立てるのは、「女・女性」を表わし、目より上にあげるのは「目上」の意味になります。

【兄】  
右手の中指を立てて甲を前に向け1回上げる。



兄

【弟】  
右手の中指を立てて甲を前に向け2回下げる。



弟

右の中指を上げ左の中指を同時に下げると、「兄弟」を表わします。

【姉】  
右手の小指を立てて甲を前に向け1回上げる。



姉

【妹】  
右手の小指を立てて甲を前に向け2回下げる。



妹

右の小指を上にあげ、左手の小指を同時に下にさげると「姉妹」を表わします。

【おじいさん】  
右手の親指を立て曲げながら小さく2回まわす。



おじいさん

【おばあさん】  
右手の小指を立てて曲げながら2回まわす。



おばあさん

自分の祖父母を表わす場合は、人差し指をほほにつけた後、「おじいさん・おばあさん」の手話を続けます。

### 自立した地域生活を送るために

認知症高齢者、知的障害者、精神障害者など判断能力が十分でない方などが安心して自立した地域生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助や代行、福祉サービス利用料の支払いなどを行う事業です。生活支援員を自宅や施設等に派遣して次のような支援サービスを行います。

- ◆ 福祉サービスに関する情報提供・助言。
- ◆ 福祉サービスの利用手続き、契約締結の支援。
- ◆ 福祉サービスの苦情解決制度の利用援助。

### 日常的金銭管理サービス

- ◆ 公共料金・福祉サービスの利用料、家賃などの支払い。
- ◆ 日常的な生活費に要する預貯金の出し入れ。
- ◆ 年金、手当の受領確認。

### 書類などの預かりサービス

- ◆ 通帳、印鑑、権利証書などの保管。

- ◆ 相談・支援計画の作成・契約の締結↓無料
- ◆ 支援員の活動↓900円(1時間)
- ◆ 書類の預かり↓500円(1ヶ月)

### 利用手続き

社会福祉協議会までお気軽にご相談下さい。

### 問い合わせ先

029-288-7013  
城里町社会福祉協議会

### 広報ボランティア募集

社会福祉協議会広報紙「かざぐるま」を一緒に作成してくれるボランティアを募集しています。かざぐるまでは、町内の福祉活動や社協活動等を紹介しており、そういった記事は、ボランティアの皆さん一人一人が取材し、記事を書いています。

身近な福祉や疑問に思ったことなどを、ボランティア個人の視点から書くことで、町民の皆さんからも読みやすく、親しみやすいと好評をいただいています。

編集会議などいつでも見学ができますので、社会福祉協議会までお問い合わせ下さい。文章を書くことだけでなく、写真に興味がある方もお待ちしております。



# わが町のさわやか元気さん ②6

**加藤木 甫男さん** 89歳  
としお  
**好美さん** 84歳  
高久

甫男さん、好美さん、ご夫妻は2人暮らしですが、同じ敷地の別棟には息子さんのご家族が住んで居ます。農業一筋の人生との事ですが、地域に於いては民生委員を5期、農協の理事や区長代理を15年してました。高根山、大山寺の氏子総代は今も続けて居ます。

**三村 栄次さん** 88歳  
高野  
**せきさん** 88歳  
錫

栄次さんご夫婦は、お孫さんの家族3人と棟続きで、息子さんご夫婦は別棟に暮らしています。食事は、昼と夜はお嫁さんが作り、息子さん達と4人で食べるのが楽しみだそうです。栄次さんは、昭和20年9月に復員されました。昭和22年に消防団に入団、其の



後副団長として17年間、平成元年には消防団長となり、地域の防災発展に尽力

トラクターでの田起こしは甫男さんの仕事ですが、田植の時期になると普段より体調が良くなるそうです。奥様の好美さんは、6年前に股関節の骨を人工骨にする手術をしました。今は快復をし、野菜作りと庭の草取りが出来る様になりました。

食事はお嫁さんの由紀子さんが昼食と夕食の用意をしてくれます。甫男さんは



1合の日本酒の晩酌を楽しんでいるそうです。「毎日がありがとうと、感謝の気持ちの生活です」と穏やかな笑顔で話されました。

され、平成5年に退任しました。

長い間の功績が認められ平成6年4月に、勲五等瑞宝章を受章されました。せきさんは、野菜を作り、花を育て、陶芸等と趣味も豊富です。お2人も健康で栄次さんは、医者知らずとの事です。大家族で暮らしている大らかさを感じました。お2人共お元気で幸せに年齢を重ねてください。

## 城里町シルバー人材センター よりお知らせ

「簡単な仕事だから、他の人に頼みづらい…」

「短い時間で終わってしまふような仕事だから…」

こんな事で、困っていませんか？

シルバー人材センターでは、些細なお仕事でもお引き受けいたします。

現場確認・見積り等、無料でお伺いいたしますので、お気軽にご連絡下さい。

**城里町シルバー人材センター**  
 (029-288-7013)

### 新規採用職員紹介

平成24年6月より、新規採用となった臨時職員です。よろしくお願ひします。

デマンド交通事業

西野 みちよ



## 目次

- 青山花しょうぶ祭り……………1
- 福祉体験学習 常北中学校1年生 思いやりの心を育む……………2
- ロハスな暮らし提案します 下環ゲートボールチーム……………3
- 全国大会出場 北関東大会出場 善意銀行に寄付……………4
- さらっと生きる……………4
- つくしの四季……………4
- 伝わる心「和敬清寂」茶事の心構え……………5
- つくしYOSAKOI 城里イン大字 防災セミナーを開催……………5
- 私たちのまちは、私たちが守る……………6
- 石塚西区自主防災会……………6
- 城里町社会福祉協議会 情報メール配信サービス……………6
- しらさと「皇都川」……………6
- 手話を学ぶ ③ 家族の紹介……………7
- 自立した地域生活を送るために 広報ボランティア募集……………7
- わが町のさわやか元気さん……………8
- 城里町シルバー人材センターよりお知らせ……………8
- 平成24年度新規採用職員紹介……………8
- 目次……………8
- 編集後記……………8

## 編集後記

7月というのにこの涼しさは何？例年であれば半袖シャツ1枚で汗を拭き拭き過ぎす毎日のはず。シャツが肌にはベタツとくつつく不快感を味わっているはずなのに…。過ぎ易いのは結構なことではあるが、まあそのうちに今の涼しさを忘れウンザリするような日々が訪れることと思う。異常気象という言葉が少し薄れてきたなか、再度小さな省エネを心がけていきたいものだ。(わ)